

平成26年度第9回定例会

八王子市教育委員会会議録（公開）

日	時	平成26年8月20日（水）	午前9時
場	所	八王子市役所 8階	801会議室

第9回定例会議事日程

1 日 時 平成26年8月20日(水) 午前9時

2 場 所 八王子市役所 8階 801会議室

3 会議に付すべき事件

第19号議案 高齢者叙勲候補者の推薦について

4 協議事項

平成27年度八王子市立小学校使用教科用図書の採択について (指導課)

八王子市教育委員会

出席委員（5名）

委員 長	(1 番)	小田原 榮
委員	(2 番)	和田 孝
委員	(3 番)	星山 麻木
委員	(4 番)	金山 滋美
教育 長	(5 番)	坂倉 仁

教育委員会事務局

教育 長 (再掲)	坂倉 仁
学校 教育部 長	野村 みゆき
学校教育部指導担当部長	相原 雄三
教育 総務 課 長	小林 順一
学校 教育 政策 課 長	小俣 勇人
施設 管理 課 長	岡 功英
保健 給食 課 長	新納 泰隆
教育 支援 課 長	穴井 由美子
指 導 課 長	細井 東
教 職 員 課 長	廣瀬 和宏
統括 指導 主事	山本 武
統括 指導 主事	斉藤 郁央
生涯学習スポーツ部長	天野 克己
生涯学習政策課長	小柳 悟
スポーツ振興課長	立川 寛之
スポーツ施設管理課長	橋本 徹
学習支援課長	新井 雅人
文化財課長	田島 巨樹
こども科学館長	牛山 清志
図書館 部長	豊田 学

中央図書館長	中村照雄
生涯学習センター図書館長	青木正美
南大沢図書館長	村田浩三
川口図書館長	福島義文
指導課指導主事	野村洋介

事務局職員出席者

教育総務課主査	堀川悟
教育総務課主任	川村直
教育総務課主任	村石英里
教育総務課嘱託員	村尾ひとみ

【午前9時00分開会】

○小田原委員長 大変お待たせいたしました。

本日の委員の出席は5名全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成26年度第9回定例会を開会いたします。

いつも申し上げておりますとおり、本市では夏季の省エネルギーの取り組みを継続しております。本定例会においても出席者は軽装で、また照明は一部消灯とさせていただきますので、御理解いただきますようお願いいたします。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。

本日の会議録署名員は、4番、金山滋美委員を指名いたします。よろしくお願いたします。

なお、議事日程中、第19号議案は審議内容が個人情報に及ぶため、非公開といたしたいと思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めます。



○小田原委員長 それでは、それ以外の日程について進行いたします。

協議事項「平成27年度八王子市立小学校使用教科用図書の採択について」を議題に供します。なお、本件につきましては、第7回及び第8回の定例会において行いました意見集約の結果を参考に協議を行いたいと思います。

協議終了後には、これまでの協議を踏まえて、事務局より議案を提出していただくことにしたいと思いますが、そのように進行することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めますので、そのような手順で進行したいと思います。

それでは、事務局は前回保管していただいた封筒を開封し、意見の集約作業をお願いいたします。集約作業には少々時間がかかりますので、しばらくお時間をいただきたいと思います。

〔事務局 封筒開封・集約作業〕

○小田原委員長 それでは、意見の集約ができたようですので、それをもとに御意見をい

ただきたいと思います。

ただ今ここに意見の集約がございますが、意見の一致が見られた種目については、具体的な協議は省略することもできると思いますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、そのように進めたいと思います。

それでは、協議を始めます。

まず、「国語」です。

「国語」の意見の集約の結果は、光村図書出版が3票です。順に申し上げますと、東京書籍が1票、学校図書が0票、三省堂が0票、教育出版が1票、光村図書出版が3票です。

ということで、過半数が光村図書出版ですが、これはよろしいですか。何か「国語」について、御質疑、御意見がございますか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、3名が推薦しております、光村図書出版を推すということでよろしくをお願いします。

その次は「書写」です。

「書写」については、東京書籍が3票、学校図書が0票、三省堂が0票、教育出版が0票、光村図書出版が2票、日本文教出版が0票です。

先ほどと同じようにいきますと、東京書籍が3票ですので東京書籍を推したいということになりますが、御意見はございませんか。光村図書出版が2票集まっていますが、よろしいですか。

○金山委員　「国語」と「書写」の会社が違いますが、大丈夫ですか。

○小田原委員長　今、金山委員から、「国語」と「書写」の教科書の会社が違ってもよろしいのですかという御質問ですが、何か御意見はありますか。

これは調査委員会からも、「それは構わない」という発言がありましたので大丈夫だと思いますし、「書写」の時間は「書写」の時間として独立していますから、大丈夫だと思います。

ということでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「書写」は、東京書籍を推すということでよろしくお願

ます。

次に、「社会」です。

「社会」の集約は、東京書籍が3票、教育出版が1票、光村図書出版が1票です。

「社会」は、これも東京書籍が3票で過半数を占めておりますので、そういうことでよろしいですか。光村図書出版と教育出版が1票ずつですけれども、何か御意見はございますか。

それでは、「社会」についても、東京書籍を推すということよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「社会」については、東京書籍を推すということにいたします。

続いて、「地図」について協議いたします。

「地図」については、東京書籍が4票、帝国書院が1票です。

これは東京書籍が4票ということで、これもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「地図」については、東京書籍を推したいと思います。

続いて、「算数」です。

「算数」につきましては、東京書籍が1票、大日本図書が1票、学校図書が2票、教育出版が0票、新興出版社啓林館が1票、日本文教出版が0票でございます。

これは票が割れましたが、いかがでしょうか。これについては御意見をいただきたいと思っております。

「算数」については4社に票が分かれています、いかがでしょうか。

教科書の現物は見なくても大丈夫ですか。例えば、学校図書が2票なのですが、啓林館、大日本、東京書籍を推した方々で、学校図書と比較して「学校図書でもいい」という御意見なのか、あるいは「学校図書のここが悪いから、ほかのものがいい」という御意見なのか、その辺りをお聞きしたいと思いますが、いかがですか。あるいは学校図書を推した方で「ほかに割れているところを見ると、では学校図書ではなく、ほかの会社にしてもいい」という御意見はありますか。

○金山委員　発言がとても難しいのですが、私が一番迷ったのは実は算数でした。私は多分学校図書を推したと思うのですが、大日本図書を外した理由は、単元末での練習問題の量が少ないからです。あとの2社であればどちらでもいいのかなとは思っております。

最後の2つ、3つまでは絞れるのですが、最後の1つにはなかなか絞れない状況でして、先生方のお話を聞いて学校図書に私は決めました。すみません、大日本図書に関しては、そういう感想です。

○小田原委員長　　ということですが、大日本図書は、いわゆる補充の問題・発展的な問題が数量的に少ないということなのですね。練習問題の量で言えば、多いとは言えない、少ないほうだということですかね。

○金山委員　　はい。

○小田原委員長　　ということで、学校図書がいいのではという御意見ですが、ほかの委員の皆さんはいかがですか。

○和田委員　　私は、学校図書を推しました。その理由は、ほかのところと甲乙つけがたいところが多かったのですが、一つは、学習内容のイメージが非常につかみやすい構成であることや、図などの活用によって何を学ぶかということが具体的によくわかるということです。二つ目は、さまざまな解答例が例示されていて、答え方が1つではなくてさまざまな答え方があっていいんだよという、そういう学習課程の中で、児童たちが行うであろう学習の様子がわかるということです。

また、全体的にテキスト形式が多くなって、記入欄等も含めて教科書を使っての学習がしやすいのではないかということ。それから学習課程そのものが非常に細かく示されていて、教える側にとっても教えやすいのではないかということです。非常に私も悩んでいるわけなのですが、そういうさまざまなことを考えたときに、これまで使っている学校図書を継続して使用してはどうだろうか、という判断で推薦させていただきました。

以上です。

○小田原委員長　　ということですが、このお二人の意見を聞いていかがですか。

○星山委員　　ごめんなさい、もう一度見せていただいてもよろしいですか。

私は東京書籍を推したのですが、私はいろいろな教科書を使って実際に模擬授業をしたり、学生といろんなことを考えたりする機会もありますので、見やすさとシンプルさが抜群だと思ったので推しました。対象のところと観点をどこに持っていくかで若干割れるかとは思ったのですが、私自身は強い意志を持って推したので、あまり変える気はありません。

○小田原委員長　　ということですが、教育長、いかがですか。

○坂倉教育長　私は、個人的には啓林館を推しました。というのは、各学年の始めに「保護者向けのエッセイ」というのを入れているのです。直接子どもたちの教育に関係ないと言えばそれまでなのですが、今、家庭学習が非常に注目されている、それから一部の方かもしれませんが、子どもの教育に対して放任傾向の保護者の方がいる中で、この姿勢を買いました。もし啓林館ではないとすれば、私は2番目はやはり東京書籍がいいと思いました。「ねらい」「振り返り」「補完問題」という組み立てもいいですし、量も多かったのも、もし次を選ぶとなれば、東京書籍かなと思ったのです。

○小田原委員長　そうですか。

以上のいろいろな御意見があったのですが、私は大日本図書だったのです。学校図書については、私は、教科書への書き込みではなくて、ノートをきちんとつくらせていくほうが力がついていこうと思っていて、なるべく教科書への書き込みを少なくする形がよろしいのではないかと、そういう傾向がマイナスのほうに働いたということですよ。

それと学力をつけていく場合には、やはり問題数や時間配当などが多いほうが算数の場合にはいいだろうと思いますので、そういう点では大日本はやはりマイナスの要素は大きいと思いました。大日本でなければ、私は、東京書籍がよいと思っています。

それから、算数で一番つまずくところは「小数・分数」の部分なのです。そのうちの「小数」の扱い方というのを各社見ていきますと、学校図書の場合には、ほかのところと比べて例えば「0.1」の扱いが非常に弱いというふうに思っていて、学校図書は候補になりませんでした。

学校図書以外に1票を投じた方が「次点で」となりますと、3票対2票という形になって東京書籍が逆転するのですが、いかがですか。

学校図書を推された方としましては、どうでしょうか。東京書籍でなければほかはあまり推せないという方もいらっしゃると思いますが、東京書籍と学校図書を比べたときにいかがか、という話になるのでしょうか。

○和田委員　1点確認なのですが、今回これについて多数である学校図書以外のものについて意見を求めているというのは、この投票数が1票差であるからということでしょうか。

○小田原委員長　過半数にならなかったからです。

○和田委員　過半数にならなかったということですか。そういう場合には再投票というよ

うな形、協議の上でということになるのですか。

○小田原委員長　　そういうことです。

○和田委員　　わかりました。

○小田原委員長　　票数が割れた場合には、協議をして、それで過半数に至る経過があれば、そちらのほうで決定するという流れを確認しているところです。

　　どうですか、学校図書の2票に追加票があれば一度目の投票どおりとなりますが、そちらに追加されないとなると、東京書籍を推す可能性が高くなります。教育長、いかがですか。

○坂倉教育長　　先ほど星山委員がおっしゃったとおり、私は考え方の点で啓林館を推したのですが、教科書の中身でといったときには、次点はやはり東京書籍だと思います。

○小田原委員長　　ということなのですが、流れとしては、もう一回教科書を見ていただいてどちらにするか決めるということによろしいですか。それで、再投票ということになりますか。山本統括指導主事、再投票をするということでもいいですか。

○山本統括指導主事　　はい。

○小田原委員長　　例えば、3年生・4年生の「分数」のところの扱いというのは非常に微妙なところなのですが、この東京書籍と学校図書の違いとして、前の協議のときにもお話ししたのですが、学校図書はコップの1リットルの水を3分の1個分にするという、非常に難しい言い方をしているわけなのですが、その表現の仕方というのは、いかがかなというところがあります。

　　いかがですか。よろしいですか。

○金山委員　　今、委員長がおっしゃったことや、星山先生がおっしゃったシンプルさというのも、わかるような気がしています。東京書籍は最後に私の中で残ったものの一つなので、私は東京書籍でもいいと思いますが、小田原委員長、いかがでしょうか。

○小田原委員長　　ということになると、どうでしょうね。

○和田委員　　私は2番目には、東京書籍を上げているのですが、実は前回のときには逆転していたのです。しかし内容構成、授業をどういうふう子どもたちがイメージしていくかというところの表示が、先ほど申し上げたように「子どもたちがいろんな考え方を持っていていい」という視点で解答例の例示などもしているところを見ると、今回の検討の中では、学校図書ということになります。

　　それから、先ほども申し上げましたが、本当に微妙なところもありますので、その

ルールに従って、2回目の意見でそれが決まっていくのであれば構わないと思っています。

○小田原委員長 男の子と女の子が出てきて「これもあるよ。あれもあるよ」というのは、各社そういうふうにはしていませんでしたか。

もう一度投票していただくという形になってもよろしいですか。では、教育長、いいですか。ここでどっちがいいかというのは、挙手みたいな形で推すことにしてよろしいですか。

○小林教育総務課長 小田原委員長、投票になったときのために今、投票用紙を取りに行っていますが、もし協議で決まればそれで結構です。

○小田原委員長 今、用紙を配っていただいていますけれども、用紙でやるか、挙手でやるかということについて、何か御意見はございますか。

○和田委員 こうやって意見を出し合っていますので、私自身は協議の中で決めていただいて結構かと思います。

○小田原委員長 はい。

それでは、学校図書が2票、あとが1票ということで票が割れたわけですが、こういう場合どうしたらいいかということで4社を比較しながら来たところです。その中で学校図書ではなくて、東京書籍がいいというような御意見も多く、学校図書から東京書籍に決まっても構わないという御意見もありました。

そういう流れで行きますと、東京書籍を推すという形で進めてよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 それでは、「算数」については、東京書籍を推したいということでよろしく願いいたします。

続いて、「理科」です。

「理科」については、集約の結果を申し上げますと、東京書籍が1票、大日本図書が1票、学校図書が1票、教育出版が0票です。新興出版社啓林館が2票でして、これも算数と同じように4社に票が分かれました。

これも先ほどのように、御意見がありましたらお願いしたいと思います。

これも非常に微妙なところで分かれましたが、いかがですか。御意見がありましたらお願いいたします。

○和田委員 私は東京書籍を推したわけなのですが、啓林館と悩みました。私も理科の教

員ですので、この教科書の扱いについてもいろいろ思うところがあるのですが、なぜ啓林館を最終的に候補にしなかったのかというと、全体的に表示されている図や文字などが小さくて非常に数が多いのではないかと、要するに、情報が非常に多く入り過ぎていて、これを授業の中でこなし切れるのかということに非常に感じました。

それから、先ほども啓林館の中では、ノートのとめ方の例示が繰り返し出されていて、これほどのノート提示というのは実際に小学生では無理だろうと。あるいは一つの例としては示せるのですが、毎回毎回ノート提示としてこういうとめ方をしなければならないということがかなりきちんとして出ているというところが、やり過ぎではないかという気が少ししています。

それから、付録の「わくわく理科プラス」は、取り組む時間そのものがあるのか。非常に資料的な要素や活用の機能はわかるのですが、果たしてここまで小学校の理科の授業の中でできるのだろうか。つまり、教科書を積み残してしまう、やり残してしまうという可能性が啓林館にはあるのではないかと、やはり絞り込みが必要ではないかと思いました。

東京都の調査などでも発展的な内容について、啓林館が圧倒的に多くなっているわけなのです。つまり、理科に非常に興味・関心があり指導力のある教員がこれを使うのであれば、非常に図鑑的な要素もあり、あるいは観察ノートの要素もあっていいと思うのですが、少し情報が多過ぎて積み残しがあるのではないかと、思います。そういう視点から、内容が絞り込めて授業の流れそのものがよくわかるページ構成になっている、東京書籍を選びました。

それから、最終的にこの授業の中で何を学ぶのかという「まとめ」の欄が、東京書籍は非常に簡潔によくまとまっていたという印象です。

以上です。

○小田原委員長　　ということですが。

私は、啓林館を推したのですが、「わくわく理科プラス」の別冊、それから「まとめよう」のところのノートでのその扱い、これが分かれ目になるだろうと思います。

私は、理科も特に高学年になっていった場合には、理科の専門の先生が教えるべきだと、もう教科担任制にすべきだと考えているのですが、教員による扱い方が力量によって差ができてくるという点で、啓林館はそういう点では差がしやすい教科書だろうと思います。ですから、八王子で、算数のように特に算数専科において習熟度別

の展開を行っている学校があれば、私は啓林館は非常にいいと思うのです。ですから、そういう方向でやってほしいという期待を込めて、「理科」は啓林館を推したわけなのです。

さらに、例えば4年生の「泡」のところの扱いを見ると、これはもう啓林館が圧倒的にいいと、私は見ているのです。その次に、東京書籍。あとはいまひとつです。そのようにいろいろなところで、例えば「ふりこ」のところなども見ていきますと、やはり学校図書はいかがかなと思います。そういう点で行くと、啓林館か東京書籍かということになっていくのですよね。

しかし東京書籍は、八王子市にとって大事な「カイコガ」がなかったり、見開きというのか、折り返しの部分が多かったりと、丁寧ですが余分なところが多くあるのです。これに比較すれば、圧倒的に啓林館のほうがいいということになります。その辺りの違いで、啓林館でなければ、私も東京書籍でも構わないとは思いますが、学校としてもいいとは思いますが、どちらでもいいと思います。

ほかの皆さんは、いかがでしょうか。

○坂倉教育長　私も啓林館ですので、それは今、委員長がおっしゃったこともあります、先ほど算数でも申し上げたように、保護者に対して一緒にやっているという視点が非常に多く出ているので、その辺りは授業で触れるのかどうかわかりませんが、非常に高く買いました。

あと他社では説明の際に「家庭学習に役に立ちます」という傾向を強く出していなかったのですが、この「わくわく理科プラス」については家庭学習のことについてよく考えてあると思います。同時に、保護者負担の軽減といいますか、いろんな補助教材がありますが、その冊数を減らしていこうという意図が強くあると思っているので、その辺はすごく高く買ったのです。ただし和田委員がおっしゃるように、これを八王子市の専科ではない教員が使いこなせるかどうかといえ、多少の疑問はあるところでもあります。

でも次点はと言われますと、確かに東京書籍も組み立てがすごくいいのですが、写真のきれいさとか事例の豊富さから言いますと、私は、学校図書かなと思います。

○小田原委員長　学校図書ですね。本当は6年生で「機構」などという、そういう言葉は使わせないのです。発展的な材料ということです。ですから、それに触れていることがいいとなるのか、触れなくてもいいのかということになるのですよね。そうする

と、東京書籍では触れていない。大日本と学校図書は触れていますが、ほかは触れていません。

それから、3年生の「電池のつなぎ方の図」なんかの比較となると、さまざまな例が出てくるのですが、それが出てくるのが東京書籍と教育出版ですよね。先ほど触れなかったところでいうと、そういうところで差が出てきますが、どうですか。金山委員、いかがですか。

○金山委員　すみません、私は学校図書を推していたのですが、写真や資料が一番鮮明で見やすいということがあります。それから、この「ふりこ」の扱いというのが少し問題かとは思ったのですが、全体を通して問題解決型といいますか、子どもたちに答えを与えるのではなくて、問題を解決させるという意図が一番はっきりしているかなと思ったので、学校図書を選びました。

啓林館の「わくわく理科プラス」の評価はどちらかという、私はマイナスと見ました。これは難しいのではないかと思ったのです。これは、八王子市ではできないのではないのかというのが一つありました。わざわざ別冊にしてつくって、それを使う必要があるのかということで、それが私にとってはマイナス点になりました。

○小田原委員長　星山委員、いかがですか。

○星山委員　やはり議論の対象が啓林館かなと思ひまして、私もたくさん情報があって図鑑のように理科に楽しんで、いろんな情報の中から自分で調べて、という意味ではいいかなと思っています。それで、わかりやすさだと東京書籍だと思っていたのですが、バランスがよくて使い慣れているのはやはり大日本かなというところで、あまり積極的理由ではなかったの、皆さんの御意見を伺って迷っているところです。

○小田原委員長　迷っているわけですね。

○星山委員　はい。

○小田原委員長　とにかく、今日絞り込まなくてははいけません。私は、啓林館にこだわるわけではないのですよ。少々難しい教科書だと思っています。私はプラスにとりましたが、使いこなせないとなれば、これはマイナスになるでしょうね。

では次点とすると、学校図書を推したいのですが、「ふりこ」はどうするか。これは学校で考えてくれるだろうと期待するのが学校図書ということになるでしょうし、大日本図書もそれぞれの欠点がありますが、よさもあるので、どちらにするかというところですよ。

私は、啓林館にこだわらないとすれば、学校図書になります。東京書籍は和田委員以外に出てくればよろしいのですが、教育長はやはり啓林館でなければという御意見ですか。

○坂倉教育長　個人的には、啓林館のこの発想を買いたいと思いますが、今言ったように現場で扱いにくいとすれば、次はやはり学校図書です。東京書籍は非常に組み立てもいいし無難なのですが、写真や事例について考えると、「ふりこ」のマイナスを除けば学校図書のほうがいいのかと思います。

○小田原委員長　皆さん、いかがですか。

○星山委員　私は、皆さんの御意見をもう少し聞きたいと思います。

○小田原委員長　特に、専門の和田委員の御発言が大きいですね。

○和田委員　いえいえ。私はやはり小学生の場合にはいろいろな知識理解よりも、学習の流れ、つまり自分がきちんと勉強していく主体的な学習や、あるいは、ほかの友達と一緒に何か学習していくという学習の意欲であるとか、そういうものを基本に考えていたので、非常にわかりやすい東京書籍を推薦したところなのです。

学校図書についても皆さんが御指摘のとおり、非常に図がきれいですし、いろいろな事例もあるのですが、私は各ページの中の区分や整理の仕方が何か十分にできていないような——例えば、文字もいろいろな文字を使っているし、いろいろな表記が混載していて1つのページの中の整理があまりよくできていないのではないかという印象を持ちました。ですから、東京書籍のほうがシンプルというか、ある意味ではしっかり学習の流れがわかって何をやってどういう練習問題なのかという、そういうことを学べるような教科書の内容ではないかという考えになっています。私は、東京書籍の次には、大日本図書を推薦しているというところです。

○小田原委員長　学校図書のマイナスとして、「ふりこ」の位置がありますよね。それについては、和田委員はどう見ますか。

○和田委員　もう一度、少しその辺の特徴等を確認させていただいてもよろしいですか。

○小田原委員長　「ふりこ」は、教育出版が5年生で4つ目に出てくるのですよね。前半のほうに出てくるのです。それから、啓林館も中ほどです。あと東京書籍と大日本図書が最後に出てくるのですよね。これは算数との兼ね合いということなのですが。あとは調査委員会では、やはり「カイコガ」にこだわっていましたよね。それが東京書籍にはないけれども、大丈夫かといったところです。

それから、私が東京書籍と学校図書との比較ということ言えば、「水の三態変化」、これは4年生のところですが、その扱いが学校図書は少し他社と比べて見劣りするという感じがします。

○和田委員 委員長の御指摘はどこですか。

○小田原委員長 「ふりこ」は、扱う時期が問題なのです。要するに、「長さ」と「おもり」との数字をとりますよね、それが「平均」と、それから、「比例」というか、「 $y = x$ 」ぐらいのグラフを描くのかな。そういうようなことを算数では、5年生の後半の2学期以降に扱うというのですよ。特に、「平均」は算数の場合、後半に出てくるのかな。なので、学校図書の「ふりこ」が最初に出てきてしまうと、理科の最初には扱えないというので、いかがかという指摘があったわけなのです。

一方で、啓林館は算数との兼ね合いというのか、理科との関係というところは巻末に示していて、その親切さというのがあるということなのです。ただ、これも大したことではないですが。そういう点でいうと、どうですか。私は、学校図書でも東京書籍でも構わないと思っています。コンパクトな面で行くと学校図書が見やすいのですが、先ほどの余分な見開きなどが無いほうが、私は教科書としてはいいと思っています。しかし、和田委員の御指摘のように、表記としてどうかというところはあると思います。

大体、3社、いや4社になるのですか、東京書籍、大日本図書、学校図書、啓林館の中で1社にするとすれば、どれがよろしいかということです。啓林館でなければ、学校図書か東京書籍か。教育長は、大日本図書でしたか。

○坂倉教育長 私は、学校図書です。

○小田原委員長 学校図書ですか。

○坂倉教育長 でも啓林館を買いたいとは正直思っています。確かに和田委員もおっしゃるように、今の教員が専科ではないということを考えると、現実的に考えた方がいいように思いますが、何か寂しいという気はします。実際にはスキルアップは教育センターでやっていますし、この辺の教科書を仮に教員が全部使い切れなくても、子どもたちには積極的に付録を使って行ってほしいですね。余計な付録を使わないという視点は、私は本当は変えたいのです。

ただ、星山委員が何度も、八王子の子ども、それから教員にとってどうなのかというところに視点を置かれているところも確かに大事だと考えます。しかし、私はこの

考え方はやはり変えたいと思っているのです。

○小田原委員長　考え方として、星山委員は「八王子の子どもたちや八王子の学校の先生たちに合う教科書」というところを一つの観点とされているのですよね。そういうことを考えると、啓林館は合いませんよ。八王子の先生たちには、非常に難しいということになるかもしれません。

だけれども、だからこそ啓林館だという考え方もあります。そうしないと、学校も先生たちもレベルは上がりません。ただ、使いにくいというのは確かだと思います。別冊になっているというのは、興味のない人は使わなくなってしまうというおそれがありますから。こうして別冊にして出してくるということは、親に負担をかけないようにしているということなのでしょうが、別冊はまた話が違うのではないのでしょうか。別冊にしないと、和田委員のおっしゃるように中身が膨らんでしまいますから、もっと難しくなるということはあるかもしれませんね。

だけれども、「宇宙の学校」、あるいは「ガサガサ体験隊」とかというのは、外で動いていますよね。そういうのも八王子の教育委員会として後援してやってもらっているということを考えると、啓林館にすべきだということにはなるだろうと、私は思います。しかし、これは無理だということであれば、私は変えても構わないと思います。ということで、私と教育長の考えですが、私が「ほかでもいいでしょう」と言わないで、頑として「啓林館でなければ」と言ったら、皆さんがどうされるか。

あと調査委員会では、ピーカーにするか、フラスコにするかとかいったようなところも問題にしていたし、あるいは天びんばかりか、電子天びんかといったところもありましたが、私は今の時代では器具あるいは機器というものは、そういう本来的なものを使っていくべきだと思います。ノートのところも、そうやっていちいち示していいのかということも一つの観点ですよ。

それでは、お伺いしたいと思うのですが、もう少し時間がかかりますか。置いておいたほうがいいですか。

では、そろそろ決めたいと思いますが、順に聞いていってよろしいでしょうか。星山委員から聞いていってもいいですか。

○星山委員　私は啓林館でもいいと思います。

○小田原委員長　和田委員は、厳しいところですけども。

○和田委員　私は、やはり東京書籍を推したいと思います。

○小田原委員長 金山さんは、いかがですか。

○金山委員 和田先生は、やはり啓林館は分量的なところが一番気になるということですか。では、すみません。私は東京書籍です。

○小田原委員長 教育長はいかがですか。

○坂倉教育長 学校、保護者、それから本人も含めて、啓林館を使いこなしてほしいという願いです。

○小田原委員長 ということでございます。

そうすると、「3：2」ということで、過半数が啓林館ということですが、よろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 では、「理科」は、啓林館を推したいということで進めていきたいと思えます。

それでは、次に「生活」でございます。

「生活」の集約の結果は、東京書籍が2票、大日本図書と学校図書が0票、教育出版が1票、信州教育出版社はございません。光村図書出版が0票、新興出版社啓林館が1票、日本文教出版が1票と、これも4社に分かれました。

これについても御意見を伺いたいと思います。

では、いかがですか。

○金山委員 すみません。今、理科で情報量の多いものを選びましたので、それにつなげるという意味の視点は必要になってきますでしょうか。それはあまり関係ないですか。

○小田原委員長 「生活」という教科の点からいうと、1年、2年では「理科」「社会」と分けなくて「理科・社会」というし、さらにほかの「家庭」などそういうようなもの全部を含めた形の「生活」になっていますので、そういうことを考えるといろいろなものがあつたほうがということになりますよね。それがさっきの「書写」と「国語」の関係のように、では3・4年生につなげるために、啓林館でなければならぬと、というのは、教科としては変わっていきますので「そういうことではない」と。どなたか御意見はございませんか。

情報量的に言えば、東京書籍と啓林館が多いということは言えます。あとは内容の点ですが、いかがですか。例えば、1年生でつるのスケッチがあるのか、ないのかということや、それがその写真で変わっているというふうになってくるのがあるのか、

悪いのかというところがありますよね。

いかがですか。どなたか御意見がありましたら。

私は「生活」は東京書籍を推したのですが、「生活」はこういうつくり方でいいのかというのは、いつも疑問に思っているのです。そういう点では、信濃教育会はもう少し違った方針でつくっているのではないかなとは期待しているのですが。

ほかと比べると、つるのスケッチがないのが東京書籍の難と言え難です。ただ、ほかを考えると、絵は、つる以外は東京書籍の絵がしっかりしていると思います。

1・2年生のときにスケッチをきちんとしていかないと、3年生以降の理科とか中学校へ行ったときの実験や観察のスケッチというのができていかないものですから、そこはきちんと1・2年生でしてほしいという期待がございます。だから、写真ではなくて、絵できちんとしてほしいと思います。

それと「生活」の中で、「理科・社会」ということにこだわらないで、家族とか、そういったつながりのところをどれほど扱ってくれているかということも、一つ出てくるかと思います。それで見ますと、東京書籍を推しているのです。

皆さん、いかがでしょうか。教育出版、啓林館、日本文教出版を推した方で御意見はございますか。

○坂倉教育長　私は、先ほど金山委員から聞いたような意味から、「理科」「社会」との継続性で、やはりこれも啓林館にしたのです。説明のときにも聞いたと思うのですが、生活科で、副教材の「たんけんブック」が要るのかということを知ったときに、「使い道はありますよ」とあったのですが、個人的に1・2年生での副教材は少し疑問があったのです。

委員長とは少し方向が違うのかもしれませんが、1・2年生の「生活」というのは、保育と言うと語弊がありますが、やはり学校になじませるということもすごく強くあるのかなと思うと、まず学校になじませる視点というのは、東京書籍の始めのほうのつくりがすごくいいと思っています。そういう意味で、今、最後の最後に本当に悩んでいたぐらいですが、東京書籍がいいかなという気もしています。

○星山委員　私は、親しみやすさで日本文教出版にしました。感覚的なのですが、一番今の1年生が抵抗なく入りやすいかなと思いました。でも東京書籍で皆さんがよいというのであれば、強いこだわりがあるわけでもないのです、よろしいかと思います。

○小田原委員長　ほかの皆さん、いかがですか。

○和田委員　私は東京書籍を推しているのですが、全体的にたくさんの活動を取り上げているということ。これは小学校1・2年生の活動ですので、ここでは何かをきちんと学ぶというよりも、さまざまな活動の中で、「学校は楽しいんだよ」「学ぶことは楽しいんだよ」というようなたくさんのことを取り上げながら、学びの流れがわかる。あるいは調査委員会の報告書にも「さっぱりしている」という言い方で書いてあるのですが、終わった後に「こういう活動をしていたんだな」と、そういうまとまりの部分非常にすっきりしているというところに、私は東京書籍のよさを感じました。

どこもなかなか決め難くて、取り上げている内容が本当に多岐にわたっていますし、似たようなところもたくさん出てきているので、私は学習の流れのわかりやすさから決めたということが正直なところではあります。

○金山委員　私は、東京書籍が教育出版で悩んでいたのですが、東京書籍は幼稚園との接続というか、スタートのところはすごくいいなと思いました。それで、使うのはやはり低学年ということで、教育出版ですと「八王子まつり」や「科学館」というものが載っているの、子どもたちは嬉しくて、そういうところがとっかかりになるのではと思ったので教育出版を選んだのですが、東京書籍でお願いしてもいいかなとは思いますが。

○小田原委員長　ということですか。

それでは、東京書籍を推すということではよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「生活」は、東京書籍を推すということで進めたいと思います。

次は、「音楽」でございます。

「音楽」については、2社で、これははっきり分かれました。

教育出版が4票、教育芸術社が1票ということですので、教育出版ということで、これはよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「音楽」は、教育出版を推すということでお願いします。

続いて、「図画工作」です。

「図画工作」は、集約の結果、開隆堂出版が2票、日本文教出版が3票でございます。

これも2社拮抗しているように見えますが、日本文教出版が過半数を超えましたので、日本文教出版ということでもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「図画工作」は、日本文教出版を推すということをお願いします。

続いて、「家庭」でございます。

「家庭」については、東京書籍が4票、開隆堂出版が1票でございます。

これも「4：1」でかなり開いておりますので、東京書籍を推すということでもよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「家庭」は、東京書籍を推すということをお願いします。

最後に「保健」でございます。

「保健」の集約の結果は、東京書籍が3票、大日本図書が0票、文教社が1票、光文書院が0票、学研教育みらいが1票でございます。

文教社、学研教育みらいについて、何か御意見はございますか。

それでは、東京書籍が過半数を超えていますので、東京書籍を推すということでもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、「保健」は、東京書籍を推すということをお願いします。

それでは、以上が集約の結果でございます。

これを踏まえて議案を作成していただきたいと思います。事務局では、この協議を踏まえて議案書を作成し、追加日程として議案を提出していただきたいと思います。

よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）では、よろしく願いいたします。

では、事務局はそれに取りかかってください。

次年度以降の教科用図書の選定について協議を続けてきまして、今、議案を出していただいているところですが、この協議の中で、この点についてもっとお話ししたいということがございましたら伺いたいと思いますが、何かございませんか。

暑い時期に、それぞれのお仕事がある中で精力的に調査に取り組んでいただいたわけですが、これだけは言っておきたいということがあれば伺いたいと思いますが。

では、議案として提出されて、それで決定した後に総括的なお話を伺いたいと思

ますので、そのときにまたお願いします。

ということで、教科用図書についての協議は、以上ということで、他に、何か報告する事項があればお伺いしたいと思います。

○野村学校教育部長　　ごさいません。

○小田原委員長　　委員の皆さんの中で、何か御報告等のごさいますか。

○金山委員　　すみません。前回まで忙しかったので報告を省かせていただいていたのですが、教育委員会連合会の活動を御報告いたします。

まず、7月4日に、全国の市町村教育委員会連合会の常任理事会に出席してまいりました。要望書の提出のお話と、文科省からの説明ということでした。

それから、7月10日には教育長会の研修会でしたが、柔道の山下泰裕さんのお話を伺ってまいりました。今、東海大学の副学長をなさっていて、話し方もとてもお上手で、小さいときから苦労していて、どういう方がきっかけになって自分を育てていただいたかというようなお話が中心でした。

それから、7月31日に東京都市町村教育委員会連合会の研究推進委員会というものに出席し、本年度の研修のお話をしてまいりました。これは、私が一応会長で出させていただいておりますが、実際には事務局がとても大変で、あちこちに連絡等々をしていただき、今大まかにまとまりつつあり、来週に決定ということになりました。来週、また理事会がありますので、出席してまいります。

以上です。

○小田原委員長　　ただいまの金山委員の御報告について、何か御質疑はごさいませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　　いつも申し訳ないです。いろいろなところにお出かけいただいて、ありがとうございます。

それでは、ただいま事務局が教科用図書採択の議案書を作成しております。これには少々時間がかかります。ほかに公開の日程はごさいませんので、議案書ができるまでしばらくお待ちいただきたいと思います。

ただいまから15分かかりますか。

○坂倉教育長　　40分までにしましょう。

○小田原委員長　　では、15分少々休憩をとるということでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　それでは、再開を10時40分ということでお願いします。

【午前10時25分休憩】

◇

【午前10時40分再開】

○小田原委員長　それでは、休憩前に引き続き再開いたします。

事務局は、追加の議案を提出してください。

〔事務局　議案文書を各委員・管理職・傍聴人に配付〕

○山本統括指導主事　それでは、追加日程、第20号議案につきましては、先ほど御協議いただきました、平成27年度に使用いたします八王子市立小学校使用教科用図書の採択についてでございます。

次のように案を作成いたしましたので、どうぞよろしくお願ひいたします。

平成27年度の八王子市立小学校使用教科用図書につきましてでございます。

教科「国語」、種目「国語」です。発行者名は、光村図書出版でございます。

書名は、「こくご一上 かざぐるま」「こくご一下 ともだち」「こくご二上 たんぽぽ」「こくご二下 赤とんぼ」「国語三上 わかば」「国語三下 あおぞら」「国語四上 かがやき」「国語四下 はばたき」「国語五 銀河」「国語六 創造」になります。

続いて、教科「国語」、種目「書写」です。発行者名は、東京書籍でございます。

書名は、「新編 あたらしい しょしゃ 一」「新編 新しい しょしゃ 二」「新編 新しい 書写 三」「新編 新しい 書写 四」「新編 新しい 書写 五」「新編 新しい 書写 六」になります。

続いて、教科「社会」、種目「社会」です。発行者名は、東京書籍でございます。

書名は、「新編 新しい社会3・4年上」「新編 新しい社会3・4年下」「新編 新しい社会5上」「新編 新しい社会5下」「新編 新しい社会6上」「新編 新しい社会6下」になります。

続いて、教科「社会」、種目「地図」です。発行者名は、東京書籍でございます。

書名は、「新編 新しい地図帳」になります。

続いて、教科「算数」、種目「算数」です。発行者名は、東京書籍でございます。

書名は、「新編 あたらしい さんすう 1上 さんすう だいすき!」「新編

あたらしい さんすう 1下」「新編 新しい算数 2上」「新編 新しい算数 2下」「新編 新しい算数 3上」「新編 新しい算数 3下」「新編 新しい算数 4上」「新編 新しい算数 4下」「新編 新しい算数 5上」「新編 新しい算数 5下」「新編 新しい算数 6 数学へジャンプ！」になります。

続いて、教科「理科」、種目「理科」です。発行者名は、新興出版社啓林館でございます。

書名は、「わくわく理科 3」「わくわく理科プラス 3」「わくわく理科 4」「わくわく理科プラス 4」「わくわく理科 5」「わくわく理科プラス 5」「わくわく理科 6」「わくわく理科プラス 6」になります。

続いて、教科「生活」、種目「生活」です。発行者名は、東京書籍でございます。

書名は、「どきどき わくわく 新編 あたらしい せいかつ 上」「あしたへジャンプ 新編 新しい 生活 下」になります。

続いて、教科「音楽」、種目「音楽」です。発行者名は、教育出版でございます。

書名は、「小学音楽 おくがくのおくりもの 1」「小学音楽 音楽のおくりもの 2」「小学音楽 音楽のおくりもの 3」「小学音楽 音楽のおくりもの 4」「小学音楽 音楽のおくりもの 5」「小学音楽 音楽のおくりもの 6」になります。

続いて、教科「図画工作」、種目「図画工作」です。発行者名は、日本文教出版でございます。

書名は、「ずがこうさく 1・2上 たのしいな おもしろいな」「ずがこうさく 1・2下 たのしいな おもしろいな」「図画工作 3・4上 見つけたよ ためしたよ」「図画工作 3・4下 見つけたよ ためしたよ」「図画工作 5・6上 見つけて 広げて」「図画工作 5・6下 見つけて 広げて」になります。

続いて、教科「家庭」、種目「家庭」です。発行者名は、東京書籍でございます。

書名は、「新編 新しい家庭 5・6」になります。

そして、教科「体育」、種目「保健」です。発行者名は、東京書籍でございます。

書名は、「新編 新しいほけん3・4」「新編 新しい保健5・6」の以上でございます。

なお、平成27年度に中学校で使用する教科用図書につきましては、事案決定規定に基づき、前年度採択された教科書を、教育長決裁にて7月1日に採択しております。また、特別支援学級の使用教科用図書につきましては、現在各学校より授業時数の調

査を行いながら、こちらも事案決定規定に基づき、8月31日までに教育長決裁にて決定してまいります。

以上でございます。

○小田原委員長　ただいま指導課から、追加日程、第20号議案「平成27年度八王子市立小学校使用教科用図書の採択について」の説明が終わりました。

本案について、御質疑はございませんか。

先ほどの厳しい協議の結果、このような追加日程となったわけですが、何かございませんか。「1票しか入らなかったけれど、これが残念だった」というようなお話もあれば伺いますが、よろしいですか。3回にわたって、時間をかけて新しい教科用図書の採択を検討してきた結果、このような形で議案として提出することができたことは大変嬉しく思っております。

この議案につきまして、特に御意見ございませんか。教育長、何かございませんか。

○坂倉教育長　前も言ったと思うのですが、子どもたちに対しては教科書を教えるのではなく、教科書で生き方や学び方というのを教えていくものだとは私は根本的には思っています。ただ、星山先生の御指摘にあったように、八王子市の子どもたちに合ったレベルの教科書、また教員に合ったレベルということは当然考えていかなければならないと思っています。

私としては、なるべく変えていきたいという姿勢で臨みました。ある意味、検定を通過してそこそこのレベルがある中で、そんな意識を持った教科書というのは現場の教員の方々には大変かもしれないけれども、協議の途中であった、「専科ではないから、慣れているこちらのほうがいい」というような発想はぜひやめてほしいという意識を持って臨んだところです。

そういう意味で、「音楽」と「家庭」の「4：1」の1票は、私が入れました。現行を全部覆したいという思いで、もちろん内容もそちらのほうがいいと思ったのですが、ただ、本当に斟酌、議論の中でこういう結果になりましたので、非常によかったと思っています。あとは、教育委員会事務局も陰で支援していく中で、各現場で教員の方々が、教科書で子どもたちに素晴らしい生き方を教えてあげることができればいいかなと思っています。

あと1点だけ。今、委員長がおっしゃった「1票しか入らなかったけれど」ということに関して、今回は東京書籍が圧勝という中で、国語は光村図書出版をとったわけ

ですが、私は東京書籍の全体の読書活動の充実さといえますか、特に6年生では学校図書館の使い方も出ているのですが、この辺は、今八王子が進めている学校図書館を充実させていこうということに関連して、非常にいいなと思ったので、そこだけは個人的に少し残念でした。

以上です。

○小田原委員長　　ということです。

ほかの皆さん、いかがですか。

○金山委員　　私は初めて教科書採択に参加させていただいたのですが、正直なところ、どの教科書もととてもよくできていると思いました。なので、迷う教科がすごく多かったです。その中で、決め手に何を持ってくるかということなのですが、いろいろな方のいろいろなお話を伺っていて、最後に私として、これを子どもたちに勉強してほしいと思うものを選びようと、原点に戻って選びようと思って選びました。

ここで選ばれたものは、私たち教育委員5人からの子どもたちへのメッセージでもありますし、先生へのメッセージでもありますので、もしかしたら使いやすい、使いづらいはあるのかもしれませんが、その中でベストを尽くしてほしいと思います。その中で、自分たちもこの教科書を使って、もう一つ上の段階で子どもたちを見ることができればいいなと思っていただけたらと、最後に思います。

○小田原委員長　　どうもありがとうございました。

ほかにいかがですか。

○和田委員　　私は今、教員養成、あるいは学校での中堅というか、経験のある先生方の授業指導に当たるような機会が多いわけですが、やはり先生方の指導力が年々低くなっているというか、心もとないというような印象を持ちながら、この教科書をどう使っていくのかと思いながら、選定にあたりました。

学習指導要領がミニマムスタンダード、つまり最低限の基準であるということが明示されてから、教科書の情報量が年々増えたり、さまざまな工夫が取り入れられていくわけですが、今回の教科書を見ても、やはり内容的には非常に情報量が多くなっているわけです。こういった教科書を、学力差がどんどん広がっていく児童あるいは指導力に差が生じている先生方がどう使ってわかりやすい授業ができていくのかということに、期待する一方で不安もあります。

今回、社会科と家庭科を除いて全て教科書が変わりましたので、先生方にはその辺

を踏まえて、新しい教科書も教材としながらしっかりと勉強していった、指導力を高めていってほしいと思っています。

また、今回の教科書採択に当たって、教科書の使い方や教科書の内容について自身が考えたことの一つに、八王子市でも小中一貫教育を推進しているわけで、その中で小学校段階の学びと中学校の学びを少し整理していかなければならない。要は、小学校段階から情報量が多くてどんどんいろんなことをやるというよりも、やはり小学校段階では基礎的な知識としての学び方、それから学習意欲というような、本当に学習に必要な基本的なことを教科書を精選した中で学んでいき、それを中学校に行っても広げていく、さまざまな分野の学習につなげていくという、そういう9年間を見渡したような学習課程も考えながら教科書を採択していくべきではないかという立場で、学習の課程を大事にした教科書という観点で、この教科書採択に当たらせていただきました。

その結果がどのようにになっていくかは、また先生方の解釈の仕方によっても違って来るかもしれませんが、大きく子どもたちの成長や発達段階を考えた教育活動につながっていくように、この教科書が活用されればありがたいと思っています。

以上です。

○小田原委員長　　ありがとうございました。

○星山委員　　さまざまな機会でも八王子の子どもたちや教員と直接接する機会があるのですが、今回の採択の結果を見てみると、本当に大きく変わったなという印象があります。いいほうに変わってほしいというような願いが込められているように思いますが、問題はやはり教員がどこまでできるかだと思います。

子どもたちは、やはり格差が広がっているのだと思います。そういう意味では、今回さまざまな子どもたちに対応できる非常に幅広い可能性を持っているものが採択されたので、それはとてもいいのではないかと思う一方、これからも出てくると思いますが、研修のあり方であったり、教員の力の差がどんどん広がっていく中で、どのようにして一人一人の子どもの学びを保障していくかという視点も、これから自分自身も問われてくるなと思いました。

私も長い間教員養成をしています、毎年とにかく未熟な状態を出しているという気持ちがあります。全体的に教員の採用はいいですし、皆受かっていくわけですが、未完成な形で現場に出ているという気持ちがありますので、私も人材育成をするときに

は教科書というのも生かしていきたいと思いますし、これから先、教員を育てるとい
う視点でも、地域の方に力になっていただくという視点でも考えていかなければなら
ないと思いました。

以上です。

○小田原委員長 ありがとうございます。

それぞれの熱い思いがあるわけですが、教科書だけではなくて、教える側の先生の
問題というのもあると思います。期待するところもあるだろうと思います。

私は教科書採択は3回目になるわけです。3回やっていて、調査委員の先生方の御
苦労もよくわかるのですが、これで私もこういう作業は最後だと思いますので、遺言の
つもりで言わせてもらいます。毎回申し上げていたのですが、調査委員会の先生方は、
多いもので1種目につき6社、7社とある教科書会社の教科書を全部見るのは大変だ
ということはわかるのですが、2社を見て、それを突き合わせてというような、そう
いう教科もあったわけです。

ぜひ、そういうことはやめていただきたいと思います。やはり私たちと同じように、
全部の教科書を見て、その上で比較していただきたいと思います。言っている
内容が違ってきて、「ここにはこれがある」と言うけれど、ほかのところはあっても
書いていないというようなことはなくしていただきたい、そういう表現の仕方はやめ
ていただきたいということがございます。

それから、指導書に言及した教科があったのですが、これほどまで言っていないか
わからない部分もありますし、前にもお話ししたかもしれませんが、指導書というの
は同じ教員の誰かが書いているわけですよ。自分たちの仲間が書いていると思って
いいと思うのです。それを考えたときに、その指導書が印象にいいからとか悪いから
ということで決める話ではないと思うのです。自分たちが指導書をつくるつもりでや
っていかなければならないだろうと思いますので、指導書のいい悪いではなくて、教
科書をどのように使っていくかという観点で、教科書に向かってほしいと思っていま
す。

それから、先ほどもお話が出ましたが、八王子まつりが出ていると嬉しく思います
よね。しかし、それが教科書の採択ではないのだということです。私は逆に、八王子
まつりは私たちが一緒に参加をしているし身近なものだから、私たちではなく、むし
ろほかの地域でその教科書を採用してほしいと思うのです。

私たちが知らないところの生活、あるいはほかの地域がどういうまちであるのかというようなものも教科書で知っていくわけで、私たちの地域については、自分たちの足で、自分たちの目で確かめていこうという姿勢が必要だろうと思いますので、ここはあまり引きずられたくない。だから、地域性ということをもどのように扱うかというのは、一つの観点になろうかと思います。

皆さんに要望、あるいはエールという形で言うておきますが、この教科書を使いこなす先生たちを育てていってほしいと思います。そのためには私たちが、単数の教員で教科書を扱うというのではなく、複数の教員が同じ教科書を扱っていくというような体制をつくっていかないと、教員の成長というのも非常に難しいだろうと思っていますので、その辺は考えていかなければならないだろうと思います。教科書だけのせいにはできないし、教員の資質だけを問うことでもない。お互いに教員たちが切磋していく。研修の機会を設けて、そこに集まるというだけではなくて、学校の中でお互いに育ち合っていくような体制をつくっていかねばならないのではないかというように感じもいたします。

そのような感じを受けながら、今回こういった形で議案が提出されましたものから、大変よかったと思っています。

他に、何かございませんか。

「1票だけで」ということで教育長のお話がありましたが、私も「地図」は、地図を教えたいという帝国書院を推したのですが、これは使いやすさとかそういう点で言えば、東京書籍のほうがはるかによかったということになると思っています。

そんないろいろな思いがありながら、この議案について決定していきたいと思いますが、何かほかにごございませんか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　では、ないようでございますので、お諮りいたします。

ただいま議題となっております第20号議案につきましては、御提案のように決定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　御異議ないものと認めます。よって第20号議案につきましては、そのように決定することにいたしました。

調査委員会の皆さん方、それから事務局の皆さん、本当にお疲れ様でございます

た。

以上で、公開の審議は終わりになりますが、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　では、特にないようでございます。

これ以降は非公開の審議となりますので、傍聴の方は御退室願います。

【午前11時07分閉会】